

ながおか・放課後子ども通信

令和3年7月19日発行(vol.2)長岡市教育委員会 子ども未来部 子ども・子育て課 ☎0258(39)2393

「放課後」という、学校とは違う世界で子どもたちは…



宮内小学校 校長 三澤 淳伸

「学校は達成価値が支配的で、地域での生活の形成価値とコントラストをなしていた。」ある論文の一節です。草野球ばかりやっていた私の子ども時代はまさにそうでした。目標に向かって努力することを組織的に行う学校を下校したら、子どもたちは、遊びという楽しさだけで様々なことを企画・運営し、その結果として自主性や創造性を身に付けていきました。今はその様相が、学校だけは変わらず、放課後の生活は随分と変わってしまいました。それは、塾や習い事（これは学校と同じ）だけに限らず、自分たちで選び、計画し、実行する、学校とは違う場面がほとんどない状態になっています。論文はそう綴っていました。

だいぶ前に、ある駄菓子屋に集まる子どもたちと、その駄菓子屋の店主とが関わるドキュメンタリー番組を見る機会がありました。子どもたちは、その駄菓子屋に集まることそのものが楽しく、けれど、喧嘩も絶えない。店主は解決の中心になるのではなく、その様子を眺め、子どもたちが解決していく姿を見守っている。どうしても駄目な場合には、少しアドバイスを与えて、よりよい関係を築けるようにしていく。そんな番組だったと記憶しています。まだまだ、こういう世界が残っているし、残せるのだなと感じました。

放課後はこうあらねばならないと思うと重苦しくなります。けれど、期待したいのは、子どもたちの放課後に関わる方々は、子どもたちが遊びという楽しさの中で様々なことを得ていく「素晴らしい場面に出会える」かもしれない。そういう期待感をもっていただければと感じる今日この頃です。

※放課後活動の連携が進んでいる地域のキーマンに寄稿いただいています。

旬の話題（有名講師がオンラインで講義。11カ所で62人が受講）

＜児童・保護者対応について学びました＞

7月13日に、児童クラブ・児童館の職員を対象に、近年増加している支援を要する子ども理解と保護者対応力アップを目指し、全国で活躍する保育ソーシャルワーカーの岸本元気さんによるオンライン講義を実施しました。

参加者アンケートからは「脳の仕組みがよく分かりました。」「子どもは、見ていないようでよく見ているのですね。」「大いに満足しました。館内で研修しようと思えます。」などの記述があり、有意義な研修会となりました。

今後も現場のニーズに併せて、様々な形で放課後活動の充実に繋がる研修会を企画してまいります。

一歩、踏み込んだ研修内容で参考になったとの声が多数！



安全・安心で心地よい「放課後の居場所」であるために

<地域と共に！ 十日町児童館を紹介します>



【ドミノ、たくさん積めたよ】

子どもたちが遊んでいるのは、歩道を作るために伐採した桜の木から地域住民が作成した、2000ピースのドミノです。市販のものよりも一回り大きくて子どもたちの手によく馴染みます。このドミノを何年も大切に使い続けています。

地域の方からは、ドミノに限らず、子どもたちのために声をかけていただくことがあります。

今後も、保護者・地域の方との絆を強くして、安全・安心な居場所にしていきたいと思ひます。



竹内館長

体験が実を結び始めている「放課後子ども教室」の取組

コロナ禍での実施に当たり、学年・時間・級などを分け、工夫を凝らしていただいています。学校からも、体育館や図書室、余裕教室などを提供いただき、定期的・継続的に取り組むことで、子どもたちの生活に潤いを与えている様子が伺えます。また、指導してくださる地域の方の充実感にもなっており、まさに地域協働事業となっています。

<子ども教室の参加児童が全国大会へ出場>

～囲碁教室（大島）の活動日誌から～

4年長谷川怜武さん、ジュニア本因坊新潟大会と北信越大会で優勝しました。全国大会出場も決定して、私たちのモチベーションは上がっています。

長谷川さんは誰よりも速く子ども教室に来て道具の準備をし、テキストを使った練習や私たちとの対戦などで実力をつけています。伸びの速さに感心し、やり甲斐を味わっています。



【真剣に囲碁対戦】



鳥羽館長

彼は、子ども教室で囲碁を始めて4年目。夢はプロ棋士だそうです。じっくり囲碁と向き合うこの時間を楽しみにしています。

また、茶道教室に参加している6年生女兒2人は、子ども教室を卒業しても先生宅でのおけいこを続けるとのこと。興味・関心を高め、その子の成長につながっていることをうれしく思ひます。

『親も育つ子育てセミナー』で家庭教育を推進

幼児や小中学生の保護者を対象にした家庭教育講座『親も育つ子育てセミナー』を開催しています。子どもの健やかな成長に向けて、子どもも親も自己肯定感（自尊感情）を高めていく子育て（＝親育ち）を柱に、子育てのエキスをキーワードに掲げ、それぞれの道のプロが親の思いや願いをくみ取ったテーマを設定し、受講者参加型の講座を展開し地域の親力の向上を目指します。

＜令和3年度計画＞

キーワード	テーマ	講師（敬称略）	開催期日
「安心・安全」 & 「有効活用」	ネット社会を賢く生き抜く子どもの育て方	(一財)インターネット協会 インターネット利用アドバイザー 大久保 真紀	4月11日 6月30日、10月7日
「怒り」 & 「しつけ」	アンガーマネジメントで怒りをコントロール	(有)マックス・ゼン パフォーマンス コンサルタンツ 代表取締役 丸山 結香	7月7日
「いのち」 & 「生きる力」	生きる力の根っこを育み、子どものいのちを守る	開業助産師 思春期保健相談士 酒井 由美子	7月28日、7月21日
「子どもの自立」 & 「親の自立」	子どもを伸ばす よりよい親子関係づくり	公認心理士・臨床心理士 スクールカウンセラー 元小学校長 木澤 弘	9月8日、10月13日
「親育ち」 & 「子育て」	親になる・親である 母親力を高め、子育てを楽しむ	NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 理事 佐竹 直子	9月22日、10月20日
「母の幸せ」 & 「子どもの幸せ」	親も子も夢に向かって 明るく楽しい子育て	糸魚川市教育員会 糸魚川教育相談センター 主任教育相談員 横澤 富士子	11月予定

※定員、参加料あり（問い合わせ：子ども・子育て課 0258-39-2393）

＜子ども会役員 251人へ、ネット社会の危険性を説明＞

4月11日に長岡市子ども会連絡協議会と共催で、子ども会育成役員研修を実施しました。『スマホ時代の大人たちへ わからないでは守れない！～今、保護者が、まわりの大人がやるべきこと～』というタイトルでインターネット利用アドバイザーの大久保真紀さんから講演していただきました。

当たり前のように子どもにスマホを持たせる現在の風潮に「子どもに端末を持たせる責任は保護者にある（買い与えているのは保護者）」「歌舞伎町を一人で歩かせるくらい危険（判断力が大切）」など、実際のネット画面やグラフを見せながら丁寧に説明していただきました。

今後、地域の子ども会の活動をとおして、多くの保護者にネット社会の危険性を自覚していただくことを期待しています。



「楽しい子育て全国キャンペーン」 見事！文部科学大臣賞に輝く

令和2年度、日本PTA全国協議会主催の「～家族で話そう！わが家のルール・家族のきずな・命の大切さ～三行詩募集」一般の部最終選考で、全国8,280点の応募の中から、長岡市立豊田小学校PTA小出里江さんが、文部科学大臣賞を受賞されました。

「子育てを やってるつもりが 親育て」

日々の子育てから学ぶことが多く、親も成長させてもらっているという思いを詩にされたそうです。おめでとうございます。

子ども食堂 ～『新町みんな食堂』を紹介します～

長岡市内には、「子ども食堂」が13か所あります。現在は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、どこの食堂もみんなでテーブルを囲んでの食事は控え、弁当を配布するなど工夫を凝らして運営しています。その中で、今回は長岡市の第1号の子ども食堂「新町みんな食堂」を紹介します。

同食堂は、平成29年4月にオープンし、夏は流しそうめんやスイカ割り、冬は餅つきなど、季節のイベントも開催し、地元の人たちの憩いの場にもなっています。最近では「蔵王の城プレイパーク」と名付けた遊びの場も同時開催し、子どもたちの楽しそうな声が聞こえてきます。



※【早く会食できるようになるといいですね】



※【ボランティアの皆さん】 【蔵王の城プレイパーク】
元気と愛情を届けます 焼きマシュマロ体験で笑顔

新町みんな食堂

開催日：毎月第3金曜日 17:00～

場 所：蔵王地区集会所（金峯神社隣）

料 金：100円（※弁当配布）

※写真はコロナ禍前のもの

時代の変化に合わせ、地道な街頭育成活動が実を結んできました！

『95.8%』、青少年のインターネット利用状況の数値です（内閣府・令和2年度調査）。今日の青少年の日常生活に、「インターネット」は欠かすことのできないツールとなっています。どこに居ても、知りたいこと・見たいことが手に入ります。

時代を振り返ると、全国に補導センターが立ち上がりはじめた昭和39年に長岡市でも活動がスタートし、設立当初は長岡警察署員とともに駅や繁華街を巡回するものでした。もちろん、インターネットはまだなく、喫煙やパチンコ店に出入りする青少年への声かけが中心でした。

声かけ活動のピークは、昭和57年「5,469人」であり、平成4年頃まで高い数字が続きました。「朝の長岡駅周辺には、学校をさぼりウロウロしている高校生がたくさんいて、バスに乗らせることが日課だった」「街中に貼られたビラ剥がしはイタチごっこだった」と長きにわたって活動してくださった方々は懐かしく語ります。

近年は不良行為も激減し、問題行動に対する注意・助言にとどまらず、育成的視点から気軽に声かけを行い、青少年ならではの正義感を伸ばし、社会への参加意識を高めることを推進しています。コロナ禍で活動日数等の制限もありましたが、令和2年度の声かけ活動は過去最少の「161人」でした。時代が変わり、子どもたちが素直になったのかもしれない。もしくは、人前には出ずに、ネットでつながり、ほどよい距離感の付き合いを楽しんでいるのかもしれない。

ネット社会の幕開けが、青少年の行動に変化をもたらしている今日、青少年健全育成に向けた取組も、新たなHow-toを見出す時がやってきました。